

連載 講座

地域防災実戦ノウハウ(48)

—実践的な防災訓練を目指して (その25)—

Blog 防災・危機管理トレーニング
主宰 日野宗門
(元消防科学総合センター研究開発部長)

(前号からの続き)

4.3 「検討会(評価・検証)の進行例」における各ステップごとの留意点

前号の「検討会(評価・検証)の進行例」における各ステップごとの留意点を以下に示します。まず、「進行例(発言例文)」をゴシックで示し、それに対する留意点を「⇒」の後に記載します(文章整理の都合上、前回の発言例文を一部修正していますが、ご了承ください)。

「検討会(評価・検証)の進行例」における各ステップごとの留意点

1. それでは、これから検討会を開始いたします。
2. 図上訓練における検討会(評価・検証)は極めて重要です。
⇒ この発言に続けて、検討会(評価・検証)の重要性を前号の4.1の(1)「図上訓練における評価・検証の重要性」の記述内容に沿って説明します。
3. 検討会では、午前中の訓練時に記入された「対応記録票」、「対応伝達票」を素材として評価・検証を行っていきたいと思います。それらをご覧いただきながら、訓練時に感じられた問題点・課題を中心にご発言をお願いいたします。
⇒ 訓練参加者に「対応記録票」、「対応伝達票」に記載された内容に基づき、その時々で感じた問題点・課題を発表していただきます。もし、前号で紹介した「問題点・課題欄」を設けた対応記録票や対応伝達票を用いた場合は、その欄に記述された内容をそのまま発表していただくと良いでしょう。

4. 早速、フェーズ1についてのご発言を求めます。どなたからでもご自由にどうぞ。

発表は5分以内をお願いします。(発言がなければ、司会が複数人を指名します。)

それでは、まず、◎◎さん、お願いします。(◎◎さん発表)

続きまして、△△さん、ご発表をお願いします。(△△さん発表)

⇒評価・検証は、全体を一括して(この例では、フェーズ1～フェーズ3をまとめて)行うよりも、フェーズごとに行った方が意見が拡散せずに済みます。なお、ここでは発表者から多面的に問題点・課題を提出いただくことが目的です。そのため、特定のテーマを設定せずに自由に発言いただくのを原則としますが、訓練の位置づけによっては、それに沿ったテーマに絞込み(例えば、関係課(関係機関)相互間の連携・調整、災害対策本部運営、情報の収集・分析・伝達、避難所運営、物資調達・配分など)、発表いただくという方法も考えられます。

ところで、発言を求めてもすぐには発表者が現れないこともあります。そのときは、司会者から適当に指名します。ここでは、◎◎さん、△△さんの二人を指名していますが、時間の許す限り訓練参加機関から偏りなく発表してもらおうと良いでしょう。おそらく、◎◎さんたちの発言が誘い水となり他の参加者も次々と発表されると思われます。

また、できるだけ多くの参加者から発表を得るため、必要に応じて発表時間に制限を設ける(この例では5分以内)ことも考えられます。

なお、訓練参加者からの意見発表は検討会(評価・検証)を成功させるための重要なポイントですが、ややもすると建前の意見が出がちです。それでは、本当の問題点・課題を探りあてることはできません。本音の意見を引き出すためには、司会者から「評価・検証では本音の意見をお願いします」、「問題点・課題を率直に語るのが評価・検証の目的です」と注意を喚起したり、司会者自らが肩の力を抜き、ときにはユーモアを交えた司会などを心がけることにより本音を出せる雰囲気を作ることが大切です。

5 それでは、皆さんからご発表いただいた問題点・課題を素材に、評価・検証を行っていききたいと思います。いただいた意見を整理しますと、次のようなテーマに分類できます。

⇒発表いただいた内容をいくつかのテーマに整理し、それに基づき順番に議論していきます。この例のように、訓練当日中に評価・検証を行う場合、発表内容を整理するための時間を別途取る余裕はありません(その必要もありません)から、進行側で特に議論したいテーマ(例えば、4で述べたような)をあらかじめ用意しておき、

そのテーマごとに意見を集約していくと効果的です。ただし、用意したテーマにしてくれない意見については新たなテーマを設け分類・整理します。

評価・検証は、これらのテーマに沿って進めたいと思います。

さて、最初のテーマ「・・・」についてまずアドバイザーの方からポイントをご指摘いただきたいと思います。そのご指摘などを参考に参加者の皆さんと意見を交換したいと思います。

⇒評価・検証は、訓練参加者が選択した状況判断・意思決定、対応が実戦に耐えるものかどうかを確認することが目的です。そのための最も優れた方法は、これらの状況判断等を過去の災害事例と照合することです。ですから、アドバイザーには、前号でも述べましたが、図上訓練や市町村の災害対応に詳しい防災専門家や近年の災害被災地の市町村職員等を招くと良いでしょう。この場合、事前にアドバイザーに対して進行管理者側で考えている「テーマ」や図上訓練で使用する状況付与票を示しておくことでアドバイザーからのコメントもより充実したものが期待できます。なお、アドバイザーを招くのが無理な場合は、司会者等の進行管理者側において過去の災害時の対応状況に関する資料を収集したり、防災専門家から意見を聞くなどして、主要な問題点、課題、教訓等を学習・整理しておくことが必要です。準備過程におけるこのような努力は進行管理者(通常、防災主管課職員が中心になると思われます)の防災知識・能力向上に大きく資することは確実ですので、いとわずに取り組まれることをおすすめいたします(安易なアドバイザー頼りよりはこちらをおすすめします)。

ところで、もしテーマを一つだけに絞るとしたら、私なら「関係課(関係機関)相互間の連携・調整」にします。その理由は、図上シミュレーション訓練は、大規模災害時の重要課題の一つである「組織間調整(多数の関係機関・団体・部課・グループの活動調整)」の課題を扱う図上訓練として最も優れているからです。「関係課(関係機関)間の活動調整や連携活動はうまくいきましたか?」、「関係課(関係機関)間との情報連絡や要請の内容・タイミングで悩みませんでしたか?」、「それらに関連してどんな問題や課題が得られましたか?」といった点を中心に議論するわけです。

6. さて、そろそろこのテーマ(またはフェーズ)での議論の残り時間が少なくなってきました。ここで、これまでの議論を整理しておきましょう。
(司会においてここまでの議論を簡単に整理する)

⇒議論しなっしにせず、節目(テーマあるいはフェーズ)ごとに簡単なまとめを行います。結論的なことを述べるのは難しいものも多いと思いますが、できるだけ論点を整理しある程度の方向性を打ち出せるように努めましょう。なお、方向性が出せないものについては今後の研究課題とします。

7. 次に、フェーズ2に移ります。

⇒以下、フェーズ1と同様に進行する。

8. (フェーズ3まで終了後)以上でフェーズごとの検討を終わります。

それでは全体を振り返って、何かご意見や質問がありましたらお願いします。

⇒意見がなければ、司会やアドバイザーから全体に共通する問題点・課題などがあれば提起します。

9 意見等も概ね出尽くしたようですので、ここで全体を振り返っての講評をアドバイザーの◆◆さんをお願いいたします。

(アドバイザーがコメント)

⇒アドバイザーのコメントに続けて司会から、災害の想定条件が変わった場合に新たにどのような問題等が生じるかを今後の検討課題として提起するのも良いでしょう。例えば、地震発生時期が厳冬期であった場合、あるいは津波が広範囲に及び広域応援部隊の到着が困難な事態が続出した場合などはどうなるかといった具合です。

10◆◆さんには、訓練関係者だけの検討ではつい見過ごしがちな重要なポイントを分かりやすくご指摘いただき、大変ありがとうございました。

以上で本日の検討会を終了します。

なお、本日の検討会では時間の関係で皆さん方の疑問やご意見を網羅できませんでした。お帰りになりましたら、皆さん方のお手元にお配りしましたアンケート票に率直なご意見をいただきたいと思います。

訓練の進め方、訓練を通じて感じた問題点や課題、対策の改善意見などどんな意見でも結構です。1週間以内に主催者側にご提出ください。主催者側ではその意見をまとめ、対策に生かすとともに、必要があれば再度検討会を開催したいと考えています。その節はよろしくをお願いいたします。

⇒この例では、図上訓練当日に検討会(評価・検証)を行うものとして述べてきま

したが、時間の制約等から検討会を後日行うこととした場合、事前に提出いただいた意見を訓練企画者（統制班）側で整理し資料として提出する必要があります。意見の整理は図上訓練の目的に照らしフェーズ別・テーマ別に行うのを基本とします。その資料をもとに各機関との意見交換を行うと良いでしょう。

なお、後日の検討会を開催しない場合であっても整理された資料に訓練企画者（統制班）側の意見や今後の方針を添えて関係機関に送付することは、その後における対策を大いに促進することになると思われます。

以上をもちまして本日予定していました全ての事柄を終了いたしました。最後に、主催者を代表して□□からごあいさつ申し上げます。

◆◆◆図上シミュレーション訓練終了後のく検討会（評価・検証）く◆◆◆

これまで、6年間(25回)にわたり、「実践的な防災訓練を目指して」というサブタイトルのもとに図上訓練について述べてきました。この間の全国における図上訓練の普及・浸透は眼を見張るものがあります。6年前にはこれほどまでの広がりや予想できなかっただけに感慨を禁じ得ません。そのことにこの連載がいささかなりとも貢献できたのであれば、筆者の無上の喜びです。

さて、図上訓練についての解説は今回で一旦終了させていただきます。次回からは別のテーマで実戦ノウハウを解説していきたいと考えています。なお、図上訓練は現時点でも改良・発展を続けています。いつの日か新たな装いのもとに再び図上訓練を取り上げるときが来るかも知れません。